ラブ・ステップ

家田荘子

世界文化社

ラブ・ステップ

著者――家田荘子
発行人――鈴木　勤
発行所――株式会社　世界文化社
〒102 東京都千代田区九段北4－2－29
電話 03-3262-5111(代表)
印刷・製本－中央精版印刷株式会社
発行日――1993年7月20日　初版第1刷発行
1993年8月15日　初版第3刷発行

©SHOKO IEDA 1993, Printed in Japan
禁無断転載・複写
定価はカバーに表示してあります。
落丁本・乱丁本はおとりかえいたします。

ラブ・ステップ／目次

I　アメリカン恋愛ステップ

アメリカン恋愛ステップ……11
葬式のためのファッション……14
亭主関白万歳……17
快適な刑務所（ジェイル）……20
「私は奥様！」……23
黒人、結婚、お金持ち……26
ハワイの日本人……29
恐怖のファミリー・ユニオン・パーティ……32
贈り物（プレゼント）はもらうもの……35

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

アメリカン妊婦は叫ぶ……38
昭和六十四年一月七日のハワイ……41
だから「ザ・バス」が好き……44
出産はパラダイス……47
米国のコスメティック……50
待ちきれない通販カタログ……53
遊び人たちの「日本女性研究」……56
ついに購入したピストル……59

II　キケンな恋愛、キケンな選択

嫌い＝別れる……65

キケンな恋愛、キケンな選択 …… 69
日本女性専門のアメリカンプレイボーイ …… 73
不謹慎、恥ずかしい、早すぎる …… 77
メイ・アイ・ヘルプ・ユー …… 84
奇妙なハワイの日本人観光客 …… 94

Ⅲ パッションを探して

私の日常生活① …… 101
ストレスを貯めて …… 111
女優志願のはずが …… 116
マネージャー兼女優だった頃 …… 119

「よけいなお世話」……122
アルコール・アレルギー……126
私の日常生活②……130
心残りな男（ヒト）……140
恋も仕事も……143
尽くす女と甘える女……148
我が家の「マミーダディ」……152
辛い経験、快適な旅……154
選挙に魅せられて……157
エイズとの闘い……161

Ⅳ　クレイジーな日々

六本木からモトを取る方法 …… 167
遊び人の資格 …… 175
寝ても醒めても、エイズ …… 183
ワイドショー、わけもなく微笑んで …… 191
ワンルーム・マンションの悲劇 …… 199
明日、アメリカに渡ります …… 207
あとがき …… 215
初出一覧 …… 222

ラブ・ステップ

装幀　坂川栄治

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

I

アメリカン恋愛ステップ

アメリカン恋愛ステップ

「キョウコ（私の本名）、ジェリーが話あるんだってよ」
フロリダ州にある夫の実家に私たちが到着するなり、バーバラ（義母）がニタッと白い歯を見せた。
「またママってば、皆に言いふらして――」
と、ジェリーは褐色の肌を赤くして大テレしながらも、
「――CJという彼女ができたんだけど、まだキスが……」
すぐ真顔になって居間の真ン中に座った。
ジェリーというのは、義母の再婚した夫の連れ子で、義母夫婦と同居している。
夫の独断と偏見に満ちた〝アメリカンスクールボーイ&ガール恋愛ステップ〟によると、まずお互いの教室へ行ったり来たり、手紙（ラブレター）の交換などを経て、一応恋が芽生える。ここま

では、日本も同じみたい。これから先が第一段階と呼ばれるもので、廊下を手をつないで歩き、教室移動する――このお披露目によって公認される。その後が、いわゆるA、B、C。ジェリーが悩んでいるのは、まだAの段階だ。もちろん彼は、早くCまでやっちゃいたくって、手をつなぎながらも、下半身をもぞもぞさせっ放しなんだけど、彼女に怒られて、ふられちゃうのが怖いとか。

「だってCJが言うんだ。キスしたら、もっと先のことまでしたくなるでしょ、って」

「バカな子。CJは、してって言ってるのよ。ね、キョウコもそう思うでしょ」

慣れない性教育を目のあたりにした私はしどろもどろ。が、夫はヘーゼンと笑ってる。

「まずは、『じゃあね』でホッペにチュッしてから、翌日聞くんだよ、CJの瞳を見つめて『唇にキスしてもいいかい？』って。イエスって言うに決まってるさ、ねぇ、ママ」

「昼間デートしてるからよ。バイトばかりしてないで、週末の夜でもデートしてごらん」

（そんな……。「やれ!!」とけしかける親がいるかぁ……？）

私は、日本のそれと比べるうち、だんだん焦ってきた。

そういえば、一か月前、つまり彼女ができるまで、ジェリーはさんざん血縁者（ファミリー）たちから、「十六にもなって彼女がいないなんて、異常すぎる。優秀な精神科医が必要だ」と、真剣に

言われ続けてきた。ちょっと太めだが、容姿も頭も踊りもすべて上の下の出来なのに童貞（バージン・ボーイ）って気後れが今も彼を臆病にしているらしい。「手紙（ラブレター）見せてあげる」と、自分の部屋へ駆けていくジェリーの大きな背中を眺めながらママと夫のかわす会話は、私をもっと唖然とさせた。

「ママ、もすこしたったら、コンドーム渡してやんないと」

「そのつもり。これを必要とする行為については、なんにも言わないけど、避妊のためだけでなく、お互いのエイズ予防のためにも使いなさいね、って教えてあげないと」

義母の深い愛情を感じながらも、

「アメリカの性教育は、ここまで来てる！」と、性教育の日常性に私は驚かずにはいられなかった。

葬式のためのファッション

超美男子(ハンサム)だった義弟が交通事故で逝ってから、ちょうど一年経った。後には可愛い妻と三人の子供(キッズ)が残された。一年前。私はエイズ取材中で、サンフランシスコから夫とフロリダの実家に駆けつけた。ドアを開けるなり、五十人前後の弔問客とお見舞いの食べ物が、ドドドと飛び出してきた。誰もが抱き合って号泣し、「オー！　ジーザス！」と、憑(つ)かれたように天に向かって叫び続け、全身を震わせ……人前で感情を素直に表現することに慣れていない唯一外国人である私は、怒濤のような迫力に負け、ただオドオドと一人、日本式に忍び泣きしていた。そんな日が四日続いた夜のこと。あれほど狂ったように泣いていた女性たちが、買物袋(ショッピングバッグ)を抱えてスマイルしながら帰って来た。葬式のための服(ドレス)を調達して来たのだという。

「キョウコ、何着てくか、決めたの？」

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.